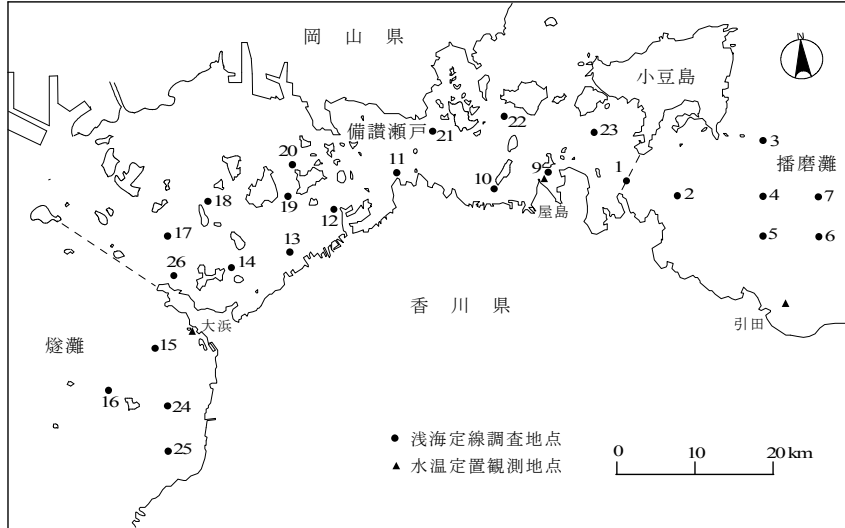


# 香川県漁海況速報 平成20年12月 (H20-9号)

香川県水産試験場

## 1. 海況

### 1) 観測地点



### 2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成20年12月2日 (播磨灘)、1日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「平年並み」、塩分は「やや高め」、透明度は「平年並みからやや高め」、溶存酸素は「やや低めから平年並み」であった。

|      |         | 水温 (°C) |      |      | 塩分 (PSU) |      |      | 透明度 (m) | 溶存酸素 (ml/L) |       |
|------|---------|---------|------|------|----------|------|------|---------|-------------|-------|
|      |         | 表層      | 10m層 | 底層   | 表層       | 10m層 | 底層   |         | 表層          | 底層    |
| 播磨灘  | 7地点平均値  | 17.0    | 17.0 | 16.9 | 32.9     | 32.9 | 32.9 | 8.2     | 5.18        | 5.12  |
|      | 平年値     | 16.8    | 16.8 | 16.8 | 32.1     | 32.1 | 32.2 | 7.3     | 5.35        | 5.25  |
|      | 平年偏差    | 0.3     | 0.2  | 0.1  | 0.8      | 0.8  | 0.7  | 0.9     | -0.17       | -0.13 |
|      | 状況      | 平年並み    | 平年並み | 平年並み | やや高め     | やや高め | やや高め | 平年並み    | やや低め        | やや低め  |
| 備讃瀬戸 | 14地点平均値 | 15.9    | 15.9 | 15.9 | 33.0     | 33.1 | 33.1 | 6.0     | 5.33        | 5.30  |
|      | 平年値     | 15.9    | 15.9 | 15.9 | 32.1     | 32.1 | 32.1 | 5.1     | 5.35        | 5.32  |
|      | 平年偏差    | 0.0     | 0.0  | 0.0  | 0.9      | 0.9  | 0.9  | 0.9     | -0.02       | -0.02 |
|      | 状況      | 平年並み    | 平年並み | 平年並み | やや高め     | やや高め | やや高め | やや高め    | 平年並み        | 平年並み  |
| 燧灘   | 4地点平均値  | 16.6    | 16.6 | 16.6 | 33.2     | 33.2 | 33.2 | 7.8     | 5.52        | 5.46  |
|      | 平年値     | 16.3    | 16.3 | 16.3 | 32.4     | 32.4 | 32.4 | 7.5     | 5.39        | 5.28  |
|      | 平年偏差    | 0.3     | 0.3  | 0.3  | 0.8      | 0.8  | 0.8  | 0.3     | 0.13        | 0.18  |
|      | 状況      | 平年並み    | 平年並み | 平年並み | やや高め     | やや高め | やや高め | 平年並み    | 平年並み        | 平年並み  |

平年偏差 = 平均値 - 平年値

平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年(1973)1月～平成13年(2002)12月

溶存酸素：昭和48年(1973)2月～平成13年(2002)12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み  $0\sigma \leq \text{平年偏差} < 0.6\sigma$  ( $\sigma$  : 標準偏差)

やや高め (やや低め)  $0.6\sigma \leq \text{平年偏差} < 1.3\sigma$

かなり高め (かなり低め)  $1.3\sigma \leq \text{平年偏差} < 2.0\sigma$

著しく高め (著しく低め)  $2.0\sigma \leq \text{平年偏差}$

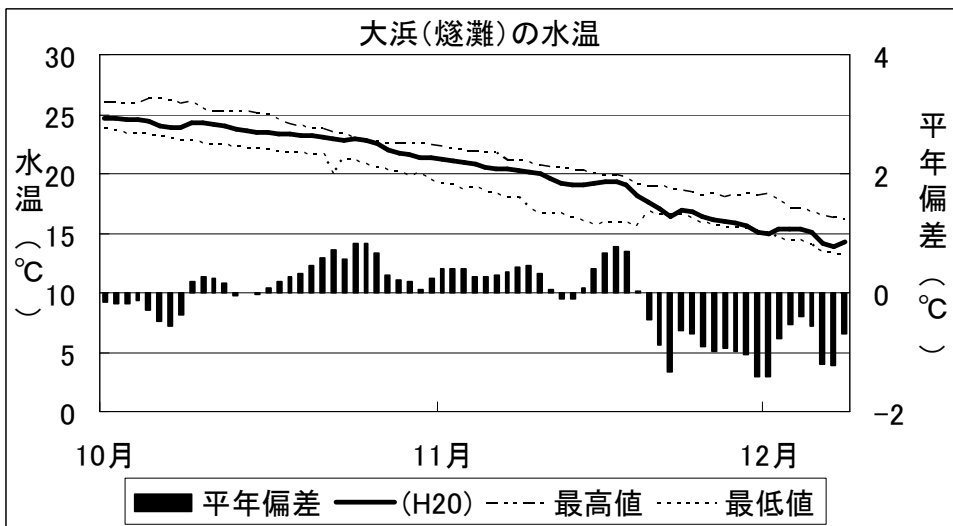
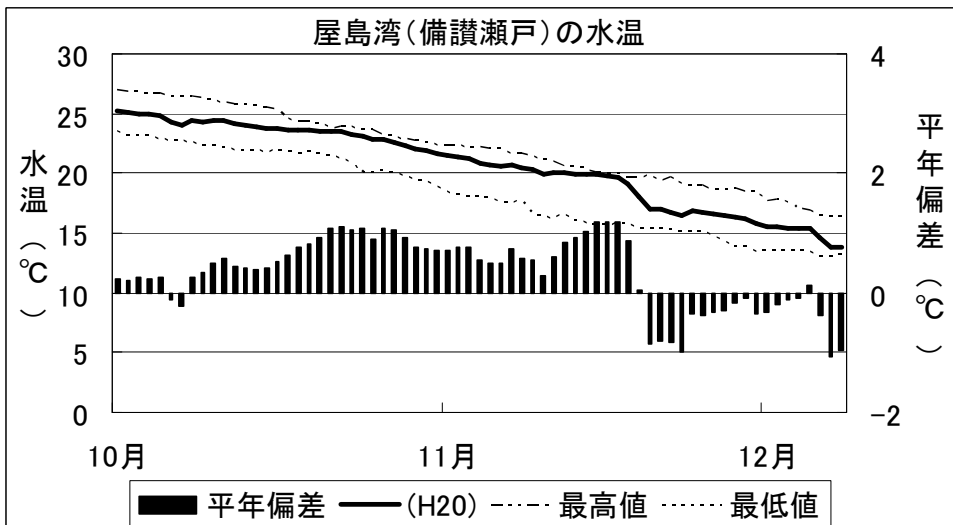
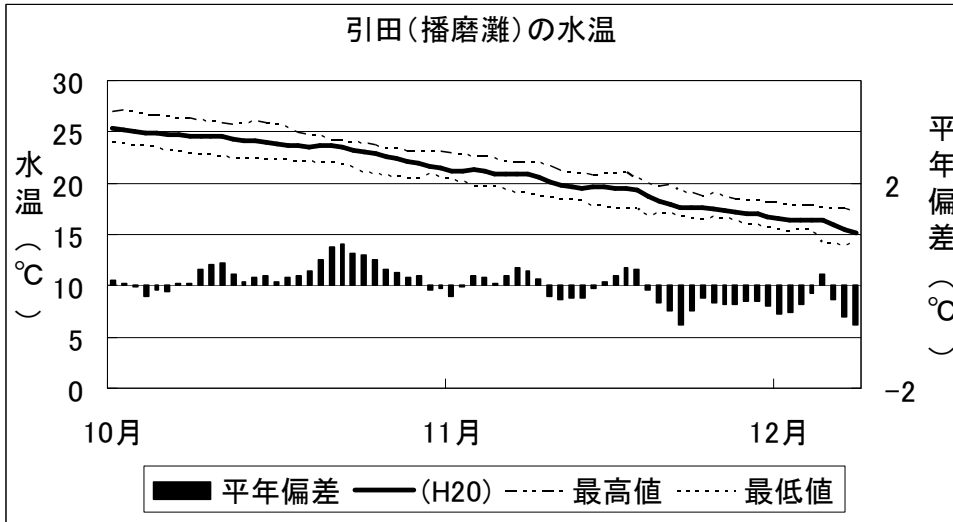
### 3) 定置観測 (水温)

播磨灘 (引田) : 11 月以降ほぼ平年並みで推移している。

備讃瀬戸 (屋島) : 11 月上・中旬は平年並みからやや高め、下旬以降はやや低めから平年並みで推移している。

燧灘 (大浜) : 11 月前半は平年並み、後半当初はやや高め、それ以降はやや低めから著しく低めで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜 : 平成元 (1989) ~平成 19 (2007) 年  
屋島 : 昭和 50 (1975) ~平成 19 (2007) 年



#### 4) 赤潮 (11月18日～12月10日)

播磨灘：発生なし。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：発生なし。

#### 5) 卵稚仔

調査日：平成20年12月2日（播磨灘）、1日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

各調査点でカタクチイワシ卵の出現はなかった。

## 2. 漁況

11月からの漁況は次のとおりである。

| 海 域     | 漁 況  |
|---------|--|
| 播 磨 灘   | <p>底びき網では主にウシノシタ類、スズキ、小エビ類、コウイカ類が漁獲されている。</p> <p>柵網では主にマアジ、タチウオ、マダイ、マボラ、カワハギが漁獲されているが、低調である。</p> <p>船びき網のシラス漁は、10月下旬で漁期を終了したが、漁獲量は前年とほぼ同じ約760トンであった。</p>   |
| 備 讃 瀬 戸 | <p>底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、マアナゴ、カワハギ、シロサバフグ、マダコ、イイダコ、コウイカ類、小エビ類が漁獲されている。依然としてマダコの好調な漁獲が続いているが、例年と比べて、イイダコ、マアナゴが少ない。</p> <p>中讃・高松沖のタイラギ潜水器漁業は12月3日から操業が開始され、漁期始めの漁獲量は前年の約3分1程度で、50～80Kg/隻・日程度である。</p> |
| 燧 灘     | <p>底びき網では主にメイタガレイ、シロギス、タチウオ、マダイ（小）、ガザミ、コウイカ類、小エビ類、シャコが漁獲されている。</p> <p>柵網では主にマダイ、スズキ、タチウオ、マルアジ、カワハギ（小）が漁獲されている。</p> <p>サワラ流し刺網の漁期中（10, 11月）のサワラの漁獲量は前年とほぼ同じ約3.1トンで1, 2才魚主体の漁獲であった。</p>              |